

# 南ぬ風



Vol.25  
2012.10~12  
秋号



ふしきがいっぽい  
公園点描

## 首里城公園 うなー 御庭

「御庭」は首里城の中心部であり、奉神門からみて正面が「正殿」、右(南側)が「南殿・番所」、左(北側)が「北殿」で、これらに囲まれた中庭広場の空間を「御庭」といいます。

年間を通じて様々な儀式が行われた広場であり、御庭には磚【敷き瓦】というタイル状のものが敷かれていますが、この色違いの列は、儀式のさいに諸官が位の順に立ち並ぶ目印の役割をもつていました。

中央の道を「浮道」といい、国王や中国皇帝の使者【冊封使】等限られた人だけが通ることを許されていました。

財團法人 海洋博覽会記念公園管理財團広報誌

季刊誌 南ぬ風 秋号  
Vol.25 2012.10~12

編集・発行/財團法人 海洋博覽会記念公園管理財團  
2012年9月発行

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888番地 TEL.0980-48-3645(代) FAX.0980-48-3900

(財) 海洋博覽会記念公園管理財團公式サイト [kaiyouhaku.jp](http://kaiyouhaku.jp)

国営沖縄記念公園公式サイト [oki-park.jp](http://oki-park.jp)

【南ぬ風インタビュー】 実績と経験を活かして管理運営のさらなる充実を。

琉球大学教授・附属図書館長 文学博士 / 高良 倉吉

《沖縄の色・形》 国頭の土と木の香りが漂う くんじやん焼 知花窯

# ふえー かじ 南ぬ風

誌名『南ぬ風(ふえーぬかじ)』について  
 「南ぬ風」は梅雨明けとともに南から吹き込んでくる強い風のことです。この南の風によって育まれてきた沖縄の自然や文化をさらに「南ぬ風」に載せ全国に発信することを意味しています。

東日本大震災により被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。  
 被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

## C O N T E N T S

### 南ぬ風インタビュー Vol.18

3

実績と経験を活かして管理運営のさらなる充実を。

琉球大学教授・附属図書館長 文学博士／高良 倉吉



### 沖縄の色・形

6

国頭の土と木の香りが漂う クンジヤン焼 知花窯



### 事業紹介

8

公園等の管理運営 首里城公園

冊封使行列・冊封儀式の再現で琉球王朝の歴史・文化を伝える。

#### 調査研究事業

緑化樹木の剪定に関する調査／海洋博公園におけるヤシガニ調査／ザトウクジラ調査／首里城尚家関係者ヒアリング補足調査

#### 普及啓発事業

沖縄の淡水生物に関する普及啓発活動／「沖縄の野生ラン展」開催  
 首里城公園企画展「首里城のデザイン」



### 沖縄の自然 南の島の植物と動物たち

14

シリーズ 沖縄の大木⑮ サキシマハマボウ

シリーズ 沖縄の希少動植物⑮ ミヤココケリンドウ/トカゲハゼ



### 沖縄の民話

16

#### 奥武山のミミズ

資料提供／NPO法人沖縄伝承話資料センター

### 財団からのお知らせ

17

第11回アジア太平洋蘭会議・蘭展 一沖縄大会一

第23回 全国椿サミット 沖縄大会



### ニュース&イベント情報 (10月～12月)

18

総合研究センター、首里城公園、海洋博公園

### ふしぎがいっぱい公園点描

20

うなこ  
首里城公園 御庭



名嘉睦稔（なかぼくねん）  
 一九五三年伊是名島生まれ。  
 版画家。造形作家。月桃紙に  
 裏手彩色と呼ばれる技法で  
 制作される作品群は、われわ  
 れ現代人が見過ごしてしま  
 がちな大自然の機微、生きと  
 し生けるものの魂の声を、時  
 に優しく、時に力強く、私達  
 に伝えてくれる。

### 表紙について 昼の風

## ( 頂点に立ったグスク )

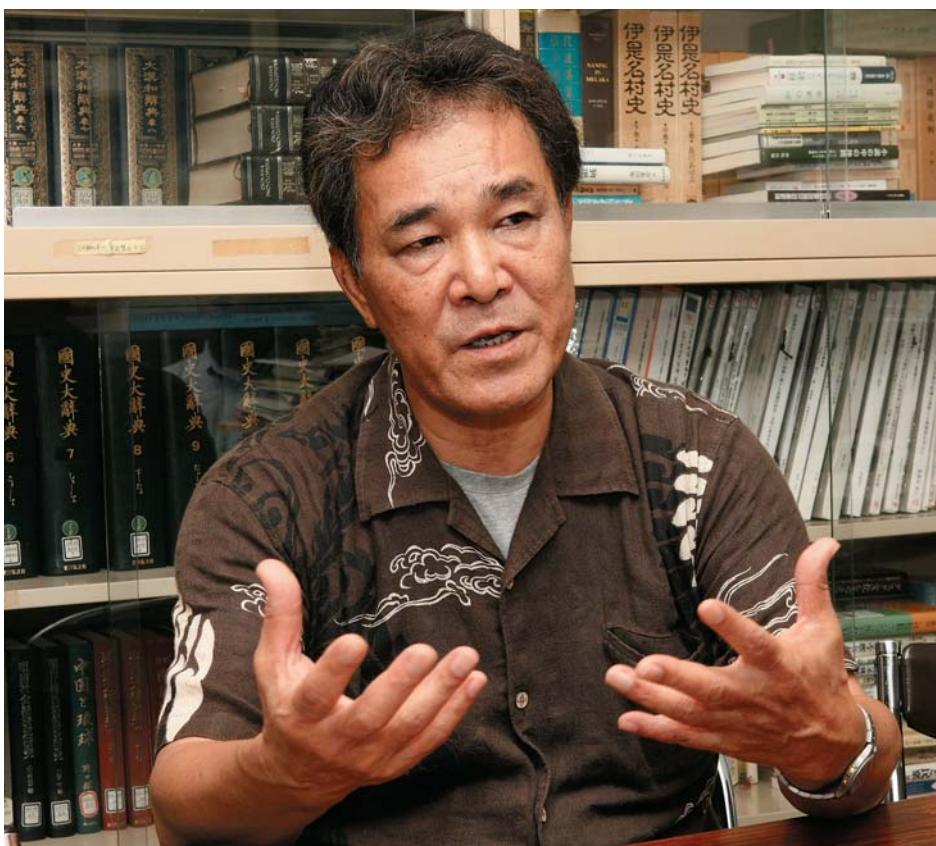
——首里城とはどんなグスクですか。

高良 2つの側面があると思います。1つは琉球における霸權の攻防の歴史です。2000年に世界遺産に指定された5つのグスク<sup>※1</sup>がありますが、グスク同士で競い合って、その中で首里城を拠点とする勢力が最後の勝利者になり、琉球の天下統一がなされました。グスクの中のグスク、頂点に立ったグスクが首里城だということでしょう。他のグスクがやがて廢墟になる中、首里城だけが存続したので一番長生きしたグスクだと言うことができます。

廃墟となつたグスクも含めてその類型を、我々は「大型グスク」と言っています。大型グスクを研究するには、その特徴を内包した首里城を研究すればいいということになります。例えば、首里城の中心的な建物は正殿ですが、正殿の前に「御庭」という広場があるこの様式は、首里城に限つた特徴ではなく大型グスク共通のものです。今帰仁城も勝連城も中城城もそうです。

2つ目は、頂点に立つたがゆえに首里城は琉球王国の司令塔としての役割を担うとともに琉球王国

琉球史研究の第一人者であり、首里城復元委員として活躍された高良倉吉教授に、首里城の特徴や復元作業についてお伺いしました。



# 実績と経験を活かして 管理運営のさらなる充実を。



(寸法記と尚家古文書の  
存在が復元を可能に)  
——首里城復元委員としてご苦労

琉球大学教授・附属図書館長  
文学博士

高良 倉吉  
*Takara Kurayoshi*

の文化の発信拠点として機能した  
グスクと言えます。外交の中心と  
して中国の皇帝の使者を迎えたたり、  
文化の中心として年間を通じた  
様々な行事を行つたりしました。  
後に芸能の発信拠点にもなつてい  
きます。これは他のグスクには見  
られない首里城だけが経験した世  
界と言えます。

[たからくらよし]1947年沖縄県伊是名村生まれ。1971年愛知教育大学教育学部社会科卒業。1993年文学博士(九州大学)。沖縄史料編集所専門員、沖縄県立博物館主査、浦添市図書館長を経て1994年4月より琉球大学法文学部教授。専門は琉球史。首里城復元検討委員、NHK大河ドラマ『琉球の風』の監修者などを務める。著書に『琉球の時代——大いなる歴史像を求めて』(筑摩書房)、『琉球王国の構造』『アジアのなかの琉球王国』(吉川弘文館)、『琉球王国』(岩波新書)の他、論文多数

※1.グスク

古琉球時代の遺跡。琉球列島全域に分布し、  
グシク、スクなどと呼ばれる。その数は200～  
300と推定されている。性格については聖域  
説・集落説・城館説などがあり定まっていない



国頭の土と木の香りが漂う

# くんじやん焼



**平成3年に開窯**  
知花さんの窯は、沖縄本島最北の町・辺土名から2キロほど山中に入った、国頭村の森林公園の一角にあります。周囲にはイタジイや琉球松など様々な樹木が生い茂り、窯場からは野鳥の鳴き声が絶え間なく聞こえるなど、素晴らしい環境の地にあります。

知花さんは本島北部地区で長い間、「くんじやん焼」の成り立ちや特徴を伺いました。  
陶芸の歴史がなかつた国頭村に、  
独学で陶芸を学んで窯場を立ち上げた知花博康さん。  
緑豊かな国頭村の山間にある窯場を訪ね、

社会科の教師として教壇に立っていました。教育熱心で周りからは「熱血教師」といわれていた知花さんですが、定年の五年前に退職し、周囲の反対を押して陶芸の道を歩み始めました。知花さんと陶芸との出会いは、東村の高江小中学校に赴任中、同僚の美術教師・比嘉敏夫さんから手ほどきを受けたのが始まりでした。以来、陶芸関係の本を読み漁り、試行錯誤を繰り返

しながら独自で陶芸に取り組み、県内外の作品展で入選を果たすほどの実力を身につけ、平成3年に現在地に窯場を開きました。「国頭の焼物だから『くんじやん焼』です。シンプルでいいで

**苦心した土づくり**  
陶芸で最も重要なことは陶土の確保です。知花さんは土探しで国頭の山々へ出でます。土探しで国頭の山々へ出でます。



をくまなく歩き廻りました。しかし、なかなか思い通りの土を見つけることが出来ませんでした。当時は山地開発が盛んなころで物議を醸していましたが、剥き出しになつた山肌の土を見に行つたこともあります。

最初の頃は、これはと思える土を持ち帰り、原土のまま陶土にして仕上がり具合を調べ、さらに他の土と混ぜて仕上がり具合を見るというテストの連続でした。その昔、作場焼<sup>はやまや</sup>が行なわれていた大宜味村喜如嘉<sup>よしよか</sup>の土などもサンプル採取してテストしてみたといいま

す。また、土には鉄分などいろいろな成分が含まれており、成分の違いで色や形に差異が出てくることから成分分析を行い、幾種類か

の土を混ぜる場合はその配合率にも注目しました。そうした作業を繰り返しながら、国頭村宇嘉<sup>うか</sup>と東村高江<sup>たかえ</sup>にある土が陶器に適していることを見つけ出しました。

**釉薬や薪にも工夫を凝らす**

知花さんは「焼物は土をこねながら作品のイメージを膨らましていく楽しみがあります。これは他の人には分からぬ自分での喜びです」と楽しそうに語ります。

作品は日常生活で使う湯のみ茶碗、皿、花瓶、コップなどですが、飲み口に厚みをもたせたり、表面をざらつかせたり、敢えて形を歪ませたりと、ユニークな形のものが多くあります。当然ながら、それは知花さんならではの造形へのこだわりです。

知花さんは、釉薬の使い方にも工夫を凝らしています。国頭村の赤土に釉薬を使うと、思うように色が出なくなると、そこで化粧土を使うなど、土質と釉薬の関係にも注意を払っています。さらには、釉薬に国頭山地に自生している琉球松や梅<sup>うめ</sup>などの木灰、石の粉を混ぜるなどの実験も行っています。

## 国頭の土と木にこだわる

「陶芸は炎の芸術といわれるよう、火の加減、使う薪の種類、釉薬の使い方など奥が深く、いつも新鮮な喜びがあります。だからストレスも溜まりません」と知花さん。知花窯では、定年退職後、焼物を始めた人たちと同好会を結成しており、会員との語らいも知花

「陶芸は炎の芸術といわれるよう、火の加減、使う薪の種類、釉薬の使い方など奥が深く、いつも新鮮な喜びがあります。だからストレスも溜まりません」と知花さん。知花窯では、定年退職後、焼物を始めた人たちと同好会を結成しており、会員との語らいも知花

※作場焼  
沖縄県では最北端に位置する古窯。窯跡は未発見ながら大宜味村謝名城作場原内にあつた17～18世紀頃の窯と推定されている。



右)色や形が多様な知花さんの作品  
左)口クロをまわす知花さん



上)3度焼き上げたという  
花器  
左)形がユニークな焼き  
締めの花器



色と肌合いが独特の茶器



知花さん。これからも国頭の土と木にこだわって陶芸に励んでいきたいと語ってくれました。

知花さん。これからも国頭の土と木にこだわって陶芸に励んでいきたいと語ってくれました。

## 冊封使行列・冊封儀式の再現で琉球王朝の歴史・文化を伝える。



上：冊封儀式風景 右下：守礼門を通る冊封使 左下：挙手する琉球国王



「主演者のモチベーションを高めることも大切」と語る業務企画係の松田啓さん

### 衣装の仕分けに4、5日



正殿前でのリハーサル風景



奉神門前でのリハーサル風景

なる中国語については沖縄県立芸術大学（現在は琉球大学）の中国人留学生に依頼。台本作りでは盛り込むべき要素や場面の時間配分について検討を重ね、リハーサルでは演者の動作が史実に基づいたものかどうかの確認も行いました。

「再現では、演出が目立ち過ぎると冊封儀式のイメージが薄れるという思いがあつて、あまり指示を出さないようにしました」と幸喜さん。裏方に撤するよう心掛けたといいます。

「冊封儀式の準備は、首里城祭の約1ヶ月半前に行われる「中秋の宴」で、その年の国主役が選出されてから本格的に始まります。リハーサルは9月後半から10月末まで計6回、公園閉園後の夜8時から11時ごろまで行います。

「冊封儀式は既に台本ができあがっていますので、それに従うだけ

けですが、現場の状況は毎年ちがいますからね」と業務企画係の松田啓さん。

「冊封使行列・冊封儀式」の出演者は総勢98名。地元首里担当町の青年会が中心になります。最初の仕事は出演者の招集と出

演者の衣装を揃えること。首里城公園近くの小学校の体育館を借り、役ごとに衣装を選んで一人ひとりの衣装ケースに入れていきます。この仕分け作業だけで4、5日ぐらいかかるといいます。

リハーサルでは、舞台監督やス

### 分野ごとにチームを編成

再現の立ち上げに携わった調査展示係の幸喜淳さん（当時業務企画係）は、「調査報告書にある企画係」の調査にあたり、平成6年に専門委員会を立ち上げて調査報告書の作成に取り掛かりました。平成8年には調査報告書に基づいて儀式のクライマックスとなる場面の模型を作成しました。

「冊封儀式」の調査にあたつては調査展示係が中心となり、平成6年に専門委員会を立ち上げて調査報告書の作成に取り掛かりました。平成8年には調査報告書に基づいて儀式のクライマックスとなる場面の模型を作成しました。

### 平成15年に初公開



出演者のメイクアップ



着付け作業

### 「百人御物参」の再現

ももそおものまわり

調査展示係と業務企画係では今、新たな試みとして、「百人御物参」の再現に取り組んでいます。琉球王朝時代、首里城やその周辺の聖域を年に複数回お参りした神女を中心とする琉球独自の祭祀行事で、神女や王府役人等により首里森御嶽（下之御座）や京の内への巡拝を執り行うものです。

「もう、台本もできています。衣装や道具づくりを進めています。今は儀式で歌われる「オモロ」（クエーナ）という神歌について、専門の先生とやりとりをしているところです」と松田さん。来年には完成予定とのこと。公開が待ち望まれます。



北殿に展示されている冊封儀式の模型



「一度に大勢を動かす大変さがあります」と語る調査展示係の幸喜淳さん

【亜熱帯性動植物に関する調査研究】

緑化樹木の剪定に関する調査



コバテイシ 剪定から9ヶ月後の状況 平成24年7月時点  
コバテイシ 剪定直後の状況 平成23年10月時点

緑化樹木は、快適でうるおいのある都市や沿道の環境をつくる上で、欠かすことのできない構成要素の一つです。しかし、沖縄における現状の街路樹等の緑化樹木は、必ずしも美しく、機能的に整備・管理されることは言い難く、樹木の特性に合わせて美しく保つ管理技術は発展途上にあり課題が多いと考えられます。このため、沖縄の緑化樹木とその管理について、施工管理者だけではなく自治体や県民にもわかりやすく伝えていくことが重要です。

このような背景を踏まえ、本調査は、樹木の剪定に関する既存知見の整理、道路・公園樹木等の現況調査を行い、問題点や課題を整理した後、剪定試験を実施して樹種特性の把握を行い、花・緑豊かな景観形成に有効な剪定技術を開発し、沖縄における緑化樹木の剪定マニュアルの作成を目指すものです。

本調査は、平成22年度から平成24年度の3カ年計画で実施しており、平成22年度は、現状の街路樹整備や管理・剪定技術について、国・県・自治体等にヒアリングを行いました。その結果、現状の剪定頻度では植物の生長の早さに追いつかず、落葉や台風対策、看板や信号への視距確保などの苦情に対応して強剪定される傾向にあること、近年では管理コストが低減される傾向があり、樹種ごとの街路樹の目標樹形設定を行いました。

やアラスカなどへ、冬は繁殖や育児のため沖縄やハワイなどへ回遊することが知られており、沖縄の沿岸海域では1~3月によく見られます。胸びれや尾びれを水面にたたきつける行動やジャンプする様子など間近で見る巨体はまさに圧巻で、ホエールウォッチングの対象として注目されています。

本種は1960年代初頭まで、沖縄を含む世界中で捕鯨の対象となっていましたため激減しました。それゆえ、1966年国際捕鯨委員会により本種の捕鯨は全面禁止とされました。それ以降、沖縄周辺にどれくらいのザトウクジラが来遊しているのかを知るため、当財団では1990年(国営沖縄記念公園水族館時代)より調査を実施してきました。

ザトウクジラは、尾びれの腹側の色彩や模様が個体ごとに異なっています。

(岡慎一郎)

ザトウクジラは、全長12~14mの大型鯨類で、夏に摂餌のためロシア



ザトウクジラのジャンプの様子(本部半島沖にて確認)

定や切り返し・剪定などによる管理本について、剪定パターン(剪定頻度および剪定時期)を変え、その後の成長状況について調査を行いました。その結果、アカギ、オキナワキヨウチクトウ、コバテイシ等は、剪定後の枝葉の伸長が早く、強剪定から1年後には樹冠が復元され、オオハマボウ、ソウシジュ、ホルトノキでは、6ヵ月後には主幹から多数の不定芽が発生し、葉に被われた状態になると、ガジュマル、ベンジャミン、デイゴでは、元の樹冠の復元までに2年から3年を要すること等がわかった。

今後、さらに樹種を追加した剪定調査や「剪定マニュアル」を実際に利用すると考えられる実務担当者などへのヒアリングを行いながらマニュアル内容の充実を図ることとしています。  
(西銘宣孝)

海洋博公園における  
ヤシガニ調査

ヤシガニ(*Birgus latro*)はインド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布し、本邦では主に琉球列島に生息する陸棲最大の甲殻類です。本種は食用による乱獲や生息域の開発によって

るため、尾びれの写真を撮影し見比べることで個体を識別することができます。2010年までに1026頭の個体を識別することができます。識別した個体の来遊履歴から、統計学的な推定式を用いて、沖縄周辺に来遊する本種の来遊頭数を算出した結果、2008年の時点で約700頭と推定できました。また、年間増加率が11.3%と算出でき、これは他の海域よりも高いため、沖縄に来遊する個体は急速に増えていることがうかがえました。

今後も個体識別の調査を継続し、雌雄など個体情報を取り集めることにより本種の来遊頭数をモニタリングしていきたいと考えています。

(岡部晴菜)

首里城尚家関係者  
ヒアリング補足調査

これまで当財団は、琉球王国時代に王家であった尚家関係者より聞き取り調査を行い、報告書を刊行しました。しかし、王家については未だ不明なことも多く、調査を継続し、より多くの情報を収集し、後世に残していく必要性があります。そのため、以前から調査に協力していただ

いた知名茂子氏(尚泰王四男尚順男)に王家であつた尚家関係者より聞き取り調査を行い、報告書を刊行しました。しかし、王家については未だ不明なことも多く、調査を継続し、後世に残していく必要があります。そのため、以前から調査に協力していただ



海洋博公園内で確認されたヤシガニ

世界的規模で資源が減少しております。同様に国内の個体群も絶滅の危険性が指摘されています。このため、今後の持続的な資源の利用や管理を目指す上で、基礎的な生態情報の蓄積や評価が必要となります。

海洋博公園の敷地内では、かねてより本種が頻繁に確認されていました。また、このようなまとまりたたがいは、沖縄本島では報告がなく、分布のほぼ北限に残された貴重な個体群であるとも言えます。さらに当個体群の生態情報は、学術的のみならずヤシガニ資源を利用した公園の運営にも有益であると考え、平成18年度から各種生態調査を開始しました。

爵の息女へ引き続きヒアリングを行いました。茂子さんの聞き取りは、誰から聞いた話か年代についてもほぼ同定できるので、これまでの地域の古老のヒアリングや文献資料等と比較研究できる情報となります。今回はおもに「お妃選び」「中城御殿」「松山御殿」をキーワードにして調査を行ないました。

松山御殿で芭蕉の糸を取る作業のために毎年仮小屋が建てられ、松川から中年女性が2~3名、通りで作業をしたことがわかりました。この糸を使い、母(眞子)が、家族の着物を織つたそです。昭和の始めには女性たちは来なくなつたそです。茂子さんを通じてみる尚家(松山御殿)の人々は普通の家族の姿でした。父尚順が管理していた農園の花木の水やりや草むしりを済ませてから、子ども達は学校の宿題に取り組めなかつたそです。駄にも厳しい父親でしたが自分の幼少時代の思い出話を夕涼みの時にしたり、レコードをかけて家族団らんする様子がうかがいしました。

(久場まゆみ)

ザトウクジラ調査

ザトウクジラは、全長12~14mの

大型鯨類で、夏に摂餌のためロシア

(岡慎一郎)

## 沖縄の淡水生物に関する 普及啓発活動



野生ラン展の様子

(瀬底奈々恵)  
これからも  
ラン科植物の  
調査研究を行  
い、その成果  
を普及啓発に  
活かしていく  
たいと思いま  
す。

沖縄島固有であるオキナワセッコ  
久、自生の北限となっているイリオ  
モテラン、名護の地名がついたナゴラ  
ン、その他エダウチヤガラやユウコク  
ランなど、普段見ることの少なく  
なつてしまつた沖縄の野生ランを展  
示し、多くの来館者に見てもらうこ  
とができました。また、ラン科植物  
の培養方法を紹介した解説パネル  
やフラスコ等を展示し、ラン科植物  
の独特な生態についても理解しても  
らうことができました。

小さな島嶼県沖縄ですが、綺麗な  
ランがあるということ、またそれら  
を守る必要があるということ、またそれら  
と、そして保護・保全活動を進めていく  
ことが大切であること、を理解してもら  
えたら幸いです。

(瀬底奈々恵)  
これからも  
ラン科植物の  
調査研究を行  
い、その成果  
を普及啓発に  
活かしていく  
たいと思いま  
す。



企画展の様子

### 首里城公園企画展 「首里城のデザイン」

企画展「首里城のデザイン」は、平成23年7月8日から平成24年3月23日(当初、3月1日までの開催で  
したが、好評につき3月23日まで延長しました。)まで、南殿2階特別展示室にて開催しました。

当企画展は、3つのテーマに沿って紹介する連続企画展で、第1弾は「牡丹 百花王と首里城」と題し、花の中の王様「牡丹」の模様でデザイン

された琉球の衣裳や祭祀道具を紹介しました。第2弾では、「葡萄と栗鼠 王の玉座を飾った異国の模様」と題し、正殿2階にある王様の玉座を飾った「葡萄と栗鼠」の模様でデザインされた琉球の工芸品等を紹介しました。なお、平成24年は、首里城公園開園20周年となるため、第3弾(「Shurijo & Dragon」)ではその記念イベントとしても開催しました。また、企画展毎に期間を通して見学者の9割が「非常に面白かった」「面白かった」の回答がありました。

多くの人々へ、琉球王国時代から伝わってきた首里城のデザインの特徴について、興味を持つてもらえる事ができました。

(大城樹)



源河川での学習会の様子



魚道掃除の様子

「沖縄の水生生物」と聞くと海の生き物を連想する方が多いかと思いますが、あまり注目されない河川にも特色ある生態系が構築されています。例えば、沖縄本島には約250の河川があり、約180種の魚類が確認されています。日本全体の河川で確認されている魚が約

320種と言われていますので、国內の半数以上の多様な魚種が生息していることになります。また、沖縄の河川は小規模かつ勾配が急であるため、一生を川の中で過ごす魚種純淡水魚は全体の1割程度と少なく、残りは海と川を行き来する魚で構成されているのが大きな特徴です。

その一方で、沖縄の淡水魚はその存続が楽観視できない現状にあるといわれています。実際、1970年代まで本島北部の各河川に生息

も外来種の影響等により危機的な状況に置かれている場合もあります。しかしながら、沖縄の淡水魚が置かれているこのような状況はあまり知られていません。

総合研究センターでは、沖縄本島北部の代表的な河川であり、奄美産のリュウキュウアユが毎年放流されている源河川に着目し、一般の方々を対象として、採集や観察を通して学習会を年1回開催しています。また、地元の源河小学校の総合学習では、河川生物を定期的に採集・記録、これらの飼育・観察を通じた学習などといった河川生物への意識向上に関する協力を実施しました。

このような活動を中心として、今後とも沖縄の河川生物の保全に関する取り組みを続けていきたいと考えています。

(岡慎一郎)

沖縄には100種を超えるラン科植物の自生が報告されています。沖縄県の陸地面積に対してこれだけの種数があるのは、全国平均と比較しても高く、つまり「小さな島という弱な生育基盤であるが故に、すこしの環境変化で絶滅してしまう危険性もはらんでいます。現に、沖縄県のほとんどが自生地の開発・園芸用の採取等といった、人間の活動に起因するものとなっています。

しかししながら、小さな島という弱な生育基盤であるが故に、すこしの環境変化で絶滅してしまう危険性もはらんでいます。現に、沖縄県のほとんどが自生地の開発・園芸用の採取等といった、人間の活動に起因するものとなっています。

沖縄には100種を超えるラン

科植物の自生が報告されています。また、その地史的条件から、沖縄にしかない固有種や変種、亜種が多いことも特徴といえます。

## 「沖縄の野生ラン展」開催

### 沖縄の淡水生物に関する 普及啓発活動

口閉塞による生活空間の分断や河川環境の悪化によって絶滅してしまった。また、数少ない純淡水魚も外来種の影響等により危機的に置かれているこのような状況はあまり知られていません。

総合研究センターでは、沖縄本島北部の代表的な河川であり、奄美産のリュウキュウアユが毎年放流されている源河川に着目し、一般の方々を対象として、採集や観察を通して学習会を年1回開催しています。また、地元の源河小学校の総合学習では、河川生物を定期的に採集・記録、これらの飼育・観察を通じた学習などといった河川生物への意識向上に関する協力を実施しました。

このよう活動を中心として、今後とも沖縄の河川生物の保全に関する取り組みを続けていきたいと考えています。

(岡慎一郎)

沖縄に自生する野生ランの紹介と、それらを取り巻く現状、また、当財団で行なっている保護・保存活動を紹介した「沖縄の野生ラン展」を開催しました。

今回、熱帯ドリームセンターにおいて、沖縄に自生する野生ランの紹介と、それらを取り巻く現状、また、当財団で行なっている保護・保存活動を紹介した「沖縄の野生ラン展」を開催しました。

本種は、海岸の隆起サンゴ礁上に生える芝生地に混在する2年生草本で、宮古島の固有種です。岩の隙間に土たまりに根を張り、表面に生える芝に守られています。ひつそりと青紫色の可憐な花を筒状に咲かせます。茎は單一または分岐し直立に伸び、乳頭状の突起があります。高さは5cmほどになります。葉は対

### 植物 ミヤココケリンドウ



(久高弘輝)

和名:ミヤココケリンドウ  
科名:リンドウ科  
学名:*Gentiana takushii*  
レッドデータカテゴリ:絶滅危惧IA類(沖縄県)



和名:トカゲハゼ  
科名:ハゼ科  
学名:*Scartelaos histophorus*  
英名:Blue mud-hopper  
方言名:トントンミー(トビハゼ等の総称)  
レッドデータカテゴリ:絶滅危惧IA類(沖縄県)  
絶滅危惧IA類(環境省)

(松崎章平)

生し、無柄で卵形、葉先は尖りません。

宮古島では、3月～4月にかけて、茎先に直径5mm前後の花を付けます。ミヤココケリンドウは、一部の海岸でごく少数の個体が確認されるだけで、周辺は土地開発が進んでおり、生育可能な環境は減少しています。

本種は、海岸の隆起サンゴ礁上に生える芝生地に混在する2年生草本で、宮古島の固有種です。岩の隙間に土たまりに根を張り、表面に生える芝に守られています。ひつそりと青紫色の可憐な花を筒状に咲かせます。茎は單一または分岐し直立に伸び、乳頭状の突起があります。高さは5cmほどになります。葉は対

### シリーズ 沖縄の希少動植物 ⑯

芝草に守られひつそりと咲く花



和名:サキシマハマボウ  
科名:アオイ科  
学名:*Thespesia populnea*

(島袋林博)

体長が12cm程になる半陸生性のハゼの仲間。体型は細長く、下顎に鬚があり、第一背鰭は伸長し鎌状となります。体色は暗緑褐色で腹部は淡青色です。國內では、沖縄の中城湾など極めて限られた沿岸の泥質干潟に生

### 動物 トカゲハゼ

息します。泥の中に生息孔を作つて生活します。干潮時には干出した泥の上を這いまわり、泥の表面に生える珪藻類を食べます。4～6月頃の繁殖期には雄がジャンプで求愛をする様子が見られます。産卵は生息孔内の産卵室で行われ、雄が孵化するまで卵を保護します。沖縄では、トビハゼやミナミトビハゼと混同してトントンミーと呼ばれています。中城湾の開発では、トカゲハゼの主要な生息場所に配慮したり、沖縄県による「トカゲハゼ保全計画」で人工繁殖技術の確立が図られています。

### シリーズ 沖縄の大木 ⑯

サキシマハマボウはアオイ科の常緑高木で、インド洋から太平洋諸島の海岸に広く分布し、日本では沖永良部以南の海岸近くの低地に自生しています。

葉はハート型で、オオハマボウより葉の先端が細長く尖り、革質で表面に光沢があります。花は黄色でオオハマボウのように全開せず、半開のまま夕方にはオレンジに変色する一日花です。耐潮性、耐風性が強いので海岸地位の防潮林、防風林として植栽される他、公園や街路樹としても利用されています。

沖縄県名護市の屋部小学校にあるサキシマハマボウは樹高9m、幹周250cm、葉張8m。沖縄県緑化推進委員会の『おきなわふるさとの名木』によれば、樹齢は推定110年とされています。

このサキシマハマボウは高木の樹林で囲われた校庭の東側にひつそりと佇んでいます。幹は北側に大きく傾き、地際より約3mの部分で西側に枝が伸び樹冠を形成しています。斜めになつた樹幹は登りやすく、子供たちの格好の遊び場になつたせいか、踏圧により樹皮は剥がれ、白い木部がむき出しになっていますが、樹勢は良く長年の労を感じさせません。10年もの長きにわたり、子供たちの遊び場として愛されて来たこのサキシマハマボウをこれからも大切に守つていきたいものです。

## Asia Pacific Orchid Conference

## 第11回アジア太平洋蘭会議・蘭展－沖縄大会－

3年毎に世界から20以上の国・地域が参加して開催される、大規模な国際蘭会議・蘭展「アジア太平洋蘭会議・蘭展 沖縄大会(APOC 11)」のメインビジュアルが、この度決定しました。

このAPOC11を表すビジュアルは、世界的にも“沖縄ならでは”的特徴を発信できるよう構成しています。沖縄固有の稀少なラン科植物であるオキナワセッコク・ナゴラン・カツウダケエビネ・イリオモテラン・カシノキランの5種類の花の形状をモチーフに、沖縄の文化である伝統工芸「紅型染め」の技法と華やかな色彩でまとめられており、その丸い円形の模様は「ランと沖縄の調和」を示しています。

APOC11の顔として、今後は県内もとより国内・国外でポスター・パンフレット等へ展開していく予定です。また、大会期間中には記念商品も企画しております。その紅型柄を囲む背景に用いられる色彩は、弁柄色と群青色の2色です。赤系の弁柄色は、古くは琉球国王の居城であった首里城の装飾の色であり、また、琉球漆器等の伝統工芸品にも用いられる色で、沖縄の文化を象徴しています。青系の群青色は、自然豊かな沖縄を包み込んでいる、紺碧の深く青い海の色であり、沖縄の豊かな自然を象徴しています。

来年2月に海洋博公園で開催予定のAPOC11、どうぞご期待ください。

## 期間

会議:2013年2月2日(土)～4日(月)

蘭展:2013年2月2日(土)～11日(月・祝)

## 会場

会議:海洋博公園 热帯・亜热帯都市緑化植物園

蘭展:海洋博公園 热帯ドリームセンターおよび夕陽の広場

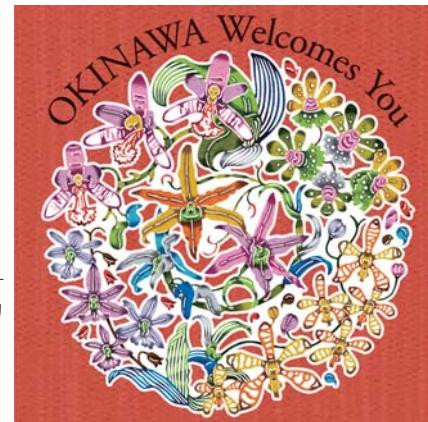
## お問い合わせ

## 第11回アジア太平洋蘭会議・蘭展－沖縄大会－事務局

(財) 海洋博覧会記念公園管理財団 研究第二課

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町石川888

電話:0980-48-2266 FAX:0980-48-2200 HP:<http://apoc11.jp/>



## 第23回 全国椿サミット 沖縄大会

見つめ直しそう琉球の椿～琉球の椿の魅力とその普及・活用～をテーマに、全国椿サミット沖縄大会が開催されます。海洋博公園でのツバキ展では、ヤブツバキの盆栽仕立てや琉球列島の固有種で香りの良さで名高いヒメザンカの展示、沖縄の七名花(うみないび、久米紅、久米白波、越來白球、首里乙女、羽地白鷺、琉球白妙)や南方系原種ツバキなどを楽しんでいただけます。また、サミット開催期間中には本部町での全国椿サミットフォーラムや交流会の開催、国頭村ツバキ祭りや、おおぎみ椿まつりの視察観察会、さらにはオプショナルツアーとして国頭村・大宜味村・本部町の椿と観光ツアーも行ないます。沖縄のツバキとともに、亜熱帯沖縄の自然や景観、歴史や文化、島の人情やふれあい、沖縄の味なども堪能してみてはいかがでしょうか。

## 期間 2013年2月15日(金)～17日(日)

2.15 金 海洋博ツバキ展、全国椿サミット協議会理事会・総会、日本椿協会総会、全国椿サミット沖縄大会開会行事、参加者交流会  
2.16 土 椿フォーラム、視察見学会(国頭村ツバキ祭り・おおぎみ椿まつり)、地元交流会  
2.17 日 国頭村・大宜味村・本部町の椿と観光ツアー

## 会場

海洋博公園(熱帯・亜熱帯都市緑化植物園)・沖縄県本部町・国頭村・大宜味村

## お問い合わせ

## 第23回全国椿サミット沖縄大会実行委員会事務局

(財) 海洋博覧会記念公園管理財団 研究第二課

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町石川888 電話:0980-48-2266 FAX:0980-48-2200



むかし、むかし、那覇の奥武山(おうのやま)は川の中に小さな島があるだけだった。沖縄ではその小さな島だけにミニズが住んでいたそうだ。  
ある晴れた月夜の晩、ミニズたちは集まって月を眺めて楽しく話をしていたそうだ。しかし、一匹の年寄りのミニズが「はあ」とためいきをつきながら悲しそうな顔をしていた。若いミニズたちは、その年寄りのミニズに「こんないい月夜の晩に、どうしてそんな悲しい顔をするんですか」と不思議になつて尋ねてみた。  
そうすると年寄りのミニズが「奥武山にはこれだけしか島がない。だけど今は若いミニズたちも増えてきている。そのうちこれらの土を全部食べ尽くしてしまつたらどうなるんだろうか」と、聞いてきた若者たちに話をしたそうだ。  
若いミニズたちは、その話を聞いてとても心配になつてしまい、「どうしよう、どうしよう」と、ついにみんなで泣き出してしまつた。そして、その涙があまりにも多いので川になつてしまつて流れていった。

すると、近くに住んでいた青大将が「おかしいなあ。今夜はこんなに晴れているのに、川の水が流れてくるなんて不思議だなあ」と思つて、その川を伝つて上つて行った。そこにはミニズたちがたくさん集まつて、ガーガー泣いていた。

そこで、若いミニズが木の葉を使って舟を造り、それに乗つて渡地に向かつて調べに行つた。そうだ。そうしたら、そこにはたくさんの中が「ばかだな、おまえたちは心配するな。川の向こうに渡れば、渡地(わたんち)という所がある。そこには土がたくさんあるから、向こうに行つたら食べるに困らないぞ」と教えた。  
そこで、若いミニズが木の葉を使って舟を造り、それに乗つて渡地に向かつて調べに行つた。そうだ。そうしたら、そこにはたくさんの中が「ばかだな、おまえたちは心配するな」とだ。その若いミニズは、奥武山に戻つて他のみんなに知らせたそうだ。ミニズたちはみんなで喜んで「ああ、なんてありがたいことだ」と言つて、木の葉の舟をたくさん造つてみんなで渡地に向かつて渡つて行つた。  
それで、そのミニズというのは、それまでは奥武山にしか居なかつたんだが、それ以来沖縄全島にミニズはたくさん広がつていつたそうだ。

資料提供/NPO法人沖縄伝承話資料センター

## 奥武山のミニズ

がたくさん集まつて、ガーガー泣いていた。

青大将は「あんたたちはどうして泣いているのか」と聞いたら、「実はわたしたちはこんなに数が増えてしまつたけど、これだけ少ない奥武山の土を食べ尽くしてしまつたら、どうしようか」と心配して泣いています。」と答えた。青大将は「ばかだな、おまえたちは心配するな。川の向こうに渡れば、渡地(わたんち)という所がある。そこには土がたくさんあるから、向こうに行つたら食べるに困らないぞ」と教えた。

### 公園全体で遊ぶ

■美ら島・美ら海こども工作室  
渚や河原の小石でクラフトづくり  
●11月  
場所 レストハウス 無料



■オータムフェスティバル  
●11月下旬  
場所 おきなわ郷土村 無料



■海洋博公園イルミネーション  
●12月  
場所 噴水広場他 無料

■美ら島・美ら海こども工作室  
こども凧～カーブヤーを作つて揚げよう～  
●12月  
場所 水の階段レストハウス 無料



■鬼餅つくり体験  
●12月  
場所 おきなわ郷土村 無料



### 生き物と親しむ

■美ら海自然教室 ヤシガニ学習会  
●10月  
場所 美ら海プラザ 無料

■美ら海自然教室 魚の体のしくみ  
●11月  
場所 美ら海プラザ 無料

**【お問い合わせ】**海洋博公園管理センター TEL 0980-48-2741(代表)

- 無料入館日/10月14日(日)・10月21日(日)は“秋の都市緑化月間”の為、熱帯ドリームセンター・海洋文化館が入館無料になります。(ただし沖縄美ら海水族館は有料)
  - 休園・休館日/12月5日(水)・12月6日(木)は海洋博公園と園内施設(沖縄美ら海水族館を含む)は、園内保守点検の為休園・休館いたします。
  - 海洋文化館展示ホール休止について/海洋文化館展示ホールはリニューアル工事のため、平成23年11月1日(火)から休止となっております。リニューアルオープンは平成25年の春を予定しています。プラネタリウムは通常通り開館しています。
- ※各イベントは内容の変更や中止となる場合がございます。最新情報や詳細はHP (oki-park.jp)等でご確認して頂くかお気軽にお問い合わせください。



### 沖縄美ら海水族館開館10周年

沖縄美ら海水族館は2012年11月1日、開館10周年を迎えます。海の大切さを伝えた10年から、その保全を考える10年へ。これまで水族館を支えてくれた人・自然に感謝をこめて、新たな感動を伝えています。

## 海洋博公園

### 冬休みイルカ学習会

●12月下旬～  
場所 イルカラグーンまたは美ら海プラザ 無料



### 冬休みマナティー飼育体験

●12月下旬～  
場所 マナティー館 無料



### 花と緑とふれあう

#### 植物のクラフト作り

10月：葉っぱでしおりを作ろう/アダンでコースターを作ろう  
11月：ミニクリスマスリース作り/ススキのフクロウを作ろう  
12月：オリジナルカレンダー作り/ミニ門松を作ろう  
●10月～12月毎日

場所 热帯・亜熱帯都市緑化植物園 無料

### 秋の都市緑化月間「苗木の無料配布」

●10月毎日  
場所 热帯・亜熱帯都市緑化植物園 無料

### 秋の県内愛好家自慢の蘭展

●10月下旬  
場所 热帯ドリームセンター 入館料のみ

### ランに関する講演会 その1

●11月  
場所 热帯・亜熱帯都市緑化植物園 無料

### ブーゲンビレア展

●11月  
場所 热帯ドリームセンター 入館料のみ



### ハイビスカス展

●12月下旬～  
場所 热帯ドリームセンター 入館料のみ



総合研究センターでは、フィールドで見つけることのできる動植物やその標本を、身近な道具や顕微鏡等を用いて観察します。そして、生物の不思議や面白さ、観察のしかた、生態系や環境の重要性などを紹介します。

### 美ら海自然教室

#### ヤシガニのことを知ってみよう

10月6日(土)  
総合研究センター/無料/定員:20名



#### 鯨類 沖縄のザトウクジラ

12月1日(土)  
総合研究センター/無料/定員:20名



### 美ら島自然教室

#### 世界の森、日本の森、そして

ヤンバルの森!  
11月17日(土)  
総合研究センター/無料/定員:50名

### 美ら島・美ら海こども工作室

#### クリスマスリースとキャンドルと

キャンドルシェイドを作ろう  
11月24日(土)  
総合研究センター/無料/定員:20名

**【お問い合わせ】**海洋博研究センター(財)海洋博覧会記念公園管理財団 総合研究センター  
TEL 0980-48-2266 FAX 0980-48-2200 HP:<http://kaiyouhaku.jp/grc/>

※各イベントの申し込みは、実施日の2ヶ月前より開始いたします。

※イベント内容・開催日時等は、変更となる場合もありますのであらかじめご了承下さい。なお、詳細はホームページを通して随時ご案内します。

※開催場所は主に海洋博研究センター(チサンリゾート沖縄美ら海(旧ロイヤルビューホテル)向かい)となります。

## 首里城公園

### 首里城公園開園20周年記念 平成24年度首里城祭

■日 時: 10月26日(金)～11月4日(日)

■場 所: 首里城公園、那覇市国際通り

■内 容: ①伝統芸能の宴 10月26日(金)～28日(日)

②冊封使行列・冊封儀式 10月27日(土)

③万国津梁の灯火 10月27日(土)～28日(日)

④琉球王朝絵巻行列 10月28日(日)

⑤首里城祭特別公園「舞への誘い」

10月29日(月)～11月4日(日)

⑥琉球王朝祭り首里「古式行列」 11月3日(土)

平成4年に首里城公園の開園

記念イベントとして開催されて以来、毎年開催されているイベントです。幻想的なキャンドルで彩られた公園内で披露される伝統芸能や那覇市国際通りで行われる約1000名の絵巻行列は必見です。



### 首里城公園「舞への誘い」

■日 時: 水・金・土・日曜日と休日  
11:00～14:00～16:00～

■場 所: 系図座・用物座及び下之御庭

琉球王朝時代に首里城で育まれた宫廷舞踊。華やかな衣裳の「四つ竹」、優美な舞の「かせかけ」など、琉球舞踊の魅力を存分に堪能できるイベントとなっており、無料で鑑賞することができます。

**【お問い合わせ】**首里城公園管理センター TEL 098-886-2020

※各イベントは内容の変更や中止となる場合がございます。最新情報や詳細はHP([oki-park.jp](http://oki-park.jp))等でご確認して頂くかお気軽にお問い合わせください。

### 首里城公園開園20周年

首里城公園は2012年11月3日、開園20周年を迎えます。「国内唯一の赤い城20年のストーリー」と題し、県民の悲願といわれた一大事業が完成した後の、展示品等の復元制作の道のり、地道な活動による美術工芸品の収集等、これまでの調査研究の軌跡を紹介します。

### 一般財団法人への法人名称変更のお知らせ

当財団は、公益法人制度改革関連法が施行されたことに伴い、一般財団法人への移行の手続きを進めており、この度、沖縄県より認可を受け、2012年10月に「一般財団法人 沖縄美ら島財団」への移行を予定しております。

一般財団法人移行後も、引き続きこれまでの事業を推進してまいりますので、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### 首里城公園企画展

#### 首里城公園開園20周年記念 特別展《首里城に魂を!Ⅱ》

■場所: 首里城公園 有料区域 南殿二階 特別展示室

■会期: 平成24年9月6日(木)～11月7日(水)

■企画展の内容  
5年の歳月をかけて復元した尾張徳川家伝来で徳川家康の遺品である朱漆花鳥七宝繋密陀飴沈金御供飯(国指定重要文化財)の初公開を行います。また当財団が収集した琉球楽器から螺鈿・密陀飴・沈金・堆錦技法の逸品の紹介を行います。

■主な展示品



朱漆花鳥七宝繋密陀飴沈金御供飯(復元)『しゅうるるしかちょうじゅうぼうつなぎみつだえちんきんうくはん』

19